

計画事業番号	00250	事務事業名	心の教室相談事業	担当部署	教育部学校教育課	電話	607
--------	-------	-------	----------	------	----------	----	-----

【基本情報】

事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務	根拠法令等					
事務事業開始年度	平成10年度	個別計画等	北広島市教育基本計画2011-2020				
〃 終了予定年度							
ソフト・ハード区分	ソフト事業	会計区分	一般会計	補助単独区分	単独	新規継続区分	継続

【事業概要】

1 総合計画体系	(第 2 章) 人と文化を育むまち	
	(第 1 節) 「生きる力」を育む学校教育の推進	
	(施策 2) 豊かな心を育む教育の充実	
2 対象	市立小中学校の児童生徒、保護者及び教職員	
3 目的と内容	児童生徒の悩みや不安、ストレス等の解消を図るとともに、いじめや不登校の未然防止と早期把握を図るため、市立小中学校に心の教室相談員を配置する。	
4 実施内容 (手段)	27年度まで	小中学校14校に心の教室相談員を配置(週2~3日、1日4時間)
	28年度	昨年度までと同様

【事業の計画・実績】

平成27年度		平成28年度	平成29年度	平成30年度
計画	実績	計画	計画	計画
小中学校14校に心の教育相談員を配置	相談件数 小学校 105件 中学校 182件	小中学校14校に心の教育相談員を配置	小中学校14校に心の教育相談員を配置	小中学校14校に心の教育相談員を配置

【評価結果・評価コメント】

総合判定		平成29年度に向けた具体的な方向性	評価区分
前年度 2次評価	現状継続	現状継続とする。	「拡大」 「現状継続」 「要検討」 「見直し」 「統合」 「休止・廃止」 「終了」
1次評価	拡大	児童生徒の悩みや不安、ストレス等の解消を図るとともに、いじめや不登校の未然防止と早期発見につなげるために必要であり、相談内容の複雑化等に対応するため、相談時数の増加を行う	
2次評価	現状継続	現状継続とする。	

【事業費の推移】

(単位:千円)

			平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
決算額、当初予算額又は推進計画額			5,925	6,050	6,198	6,198
事業額	直接事業費	国支出金	0	0	0	0
		道支出金	0	0	0	0
		地方債	0	0	0	0
		その他特財	0	0	0	0
		一般財源	5,925	6,050	6,198	6,198
		① 合計	5,925	6,050	6,198	6,198
	人件費	② 人数(年間)	0.50	0.50	0.50	0.50
		③ 1人当り年間平均人件費	9,000	9,000	9,000	9,000
		④ =②×③	4,500	4,500	4,500	4,500
総事業費①+④			10,425	10,550	10,698	10,698

【評価指標】

指標名		単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
活動指標	①相談員数	目標値	14	14	14	14
		実績値	14			
	②小学校相談件数	目標値	200	200	200	200
		実績値	105			
③中学校相談件数	目標値	190	190	190	190	
	実績値	182				
④	目標値					
	実績値					
成果指標	① 【指標の定義(算式等)】	目標値				
		実績値				
	② 【指標の定義(算式等)】	目標値				
		実績値				
	③ 【指標の定義(算式等)】	目標値				
		実績値				

【評価項目】

チェック項目		評点	コメント
妥当性	・税金を使って行うこと(補助すること)が妥当ですか? ・上位の施策への貢献度は大きいですか? ・特定の団体の利益に偏っていませんか? 【評点欄】3妥当、2どちらかという妥当、1妥当でない 【コメント欄】理由を記入	3	学校内に教職員以外の第三者的な立場で対応できる相談員を配置することにより、児童生徒が自分の悩み等を気軽に相談することができる。
達成度	・計画どおりに成果があがっていますか? 【評点欄】3あがっている、2どちらかといえばあがっている、1あがっていない 【コメント欄】理由を記入	3	児童生徒の悩みや不安を早期に発見し解消に導くことにより、いじめや不登校等の未然防止につながっている。
成果向上	・成果が現状よりも向上する可能性がありますか? 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】成果を向上させるための方策、代替策を記入	3	大規模校では相談を受けきれない可能性があること、また、児童生徒が相談したいときに相談員が居ないといったことも考えられることから、時間数の増加を図ることが望ましいと考える。
経済性	・現在の成果を落とさずにコスト(予算・所要時間等)を削減するための方法はありませんか? 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】コストを削減するための方策、補助金の減額・削減について具体的に検討し、検討内容を具体的に記入	3	相談内容により、専門性が求められる場合等は、スクールカウンセラーや子どもサポートセンター相談員につなぐなど、効率的な運用を行っている。

【法律で実施が義務付けられている事務事業か】	<input type="checkbox"/> 法律の義務付けあり	<input checked="" type="checkbox"/> 法律の義務付けなし
------------------------	------------------------------------	-----------------------------------------------

【民間活力の活用性評価】 (事業担当部局が評価)	<input checked="" type="checkbox"/> 民間等での実施または市民等との協働が可能である。 <input type="checkbox"/> 民間等での実施または市民等との協働の可能性はない。
-----------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------